

「滋賀県放課後児童クラブ実態調査」結果について

令和3年度に実施した「滋賀県放課後児童クラブ実態調査」結果の概要は、以下のとおりでした。

1. 調査の目的

放課後児童クラブの現場の職場環境の実態、放課後児童支援員等として働くことへの不安や職場等に望むことなど幅広く実態を調査・分析し、今後の効果的な放課後児童クラブの質の向上の取組みに繋げることを目的に実施しました。

2. 調査の概要

(1) 調査対象

- ①放課後児童クラブ運営者：県内に所在する全放課後児童クラブ事業者
- ②放課後児童支援員：県内の放課後児童クラブ(①)に勤務する全放課後児童支援員
- ③補助員：県内の放課後児童クラブ(①)に勤務する全補助員
- ④事務職員：県内の放課後児童クラブ(①)に勤務する全事務職員

(2) 調査期間

令和3年6月14日(月)から令和3年6月30日(水)まで

(3) 主な調査内容

- ①放課後児童クラブ運営者：平均利用者数、施設面積、資質向上・職場定着の取組、処遇改善状況
- ②放課後児童支援員：労働環境の現状、今後の就業意向
- ③補助員：支援員としての就業希望、労働環境の現状、今後の就業意向
- ④事務職員：支援員としての就業希望、労働環境の現状、今後の就業意向

(4) 回収結果

区分	配付数	有効回答数	有効回答率
①放課後児童クラブ運営者調査	376件	232件	61.7%
②放課後児童支援員調査	1,313件	889件	67.7%
③補助員調査	1,436件	746件	51.9%
④事務職員調査	61件	31件	50.8%

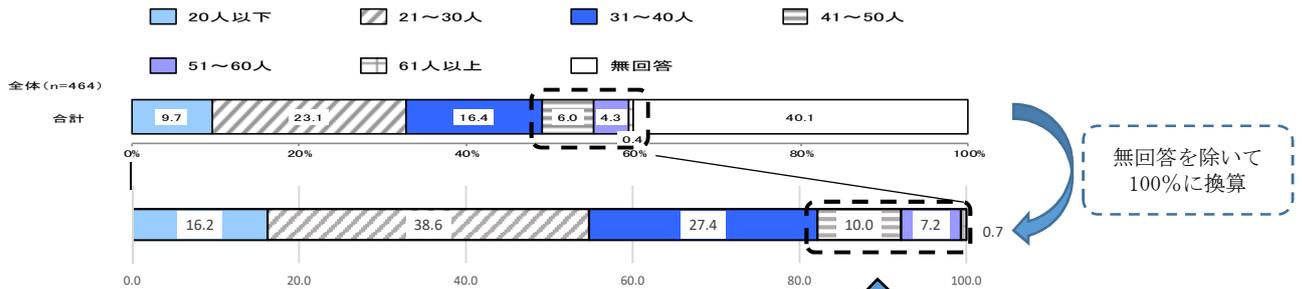
3. 調査結果の概要

(1) 放課後児童クラブ運営者調査

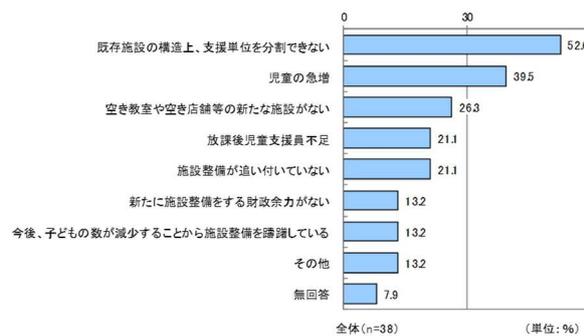
①施設に関すること

- ・1日当たり平均利用者数は、「21～30人」が23.1%で最も多く、次いで「31～40人」が16.4%で続いています。
- ・「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準（以下「基準省令）」で一の支援単位を構成する児童の数は、おおむね40人以下とされていますが、41人以上の支援単位がある理由は、「既存施設の構造上、支援単位を分割できない」が52.6%で最も多く、次いで「児童の急増」が39.5%で続いています。

(1) - 1 1日当たり平均利用者数

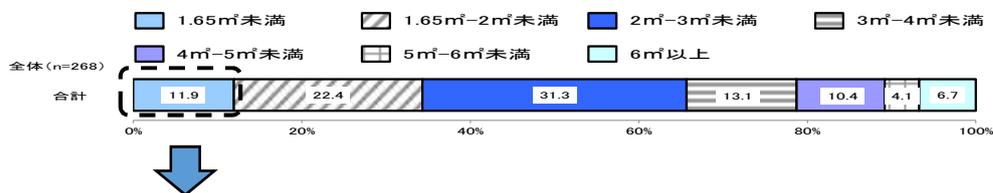


(1) - 2 41人以上の支援単位がある理由

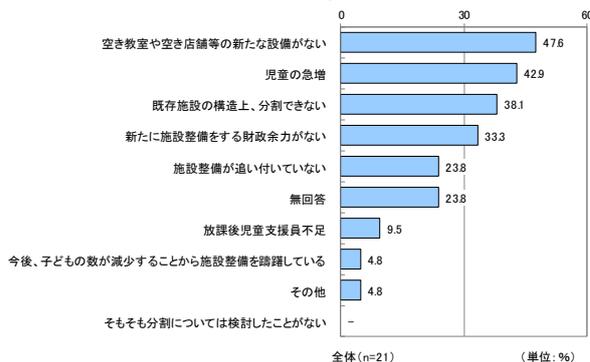


- ・児童1人当たりの専用区画面積は、「2㎡～3㎡未満」が31.3%で最も多く、次いで「1.65㎡～2㎡未満」が22.4%で続いています。
- ・基準省令で児童1人当たりの専用区画面積は、おおむね1.65㎡以上とされていますが、児童1人当たりの専用区画面積で1.65㎡未満の支援単位がある理由は、「空き教室や空き店舗等の新たな設備がない」が47.6%で最も多く、次いで「児童の急増」が42.9%で続いています。

(1) - 3 児童1人当たりの専用区画面積



(1) - 4 1.65㎡未満の支援単位がある理由

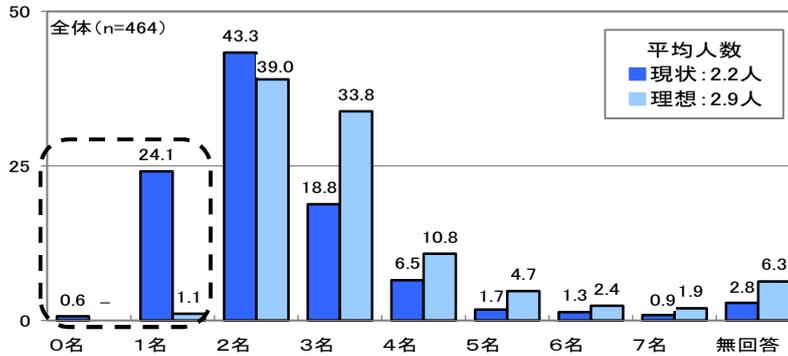


②職員に関すること

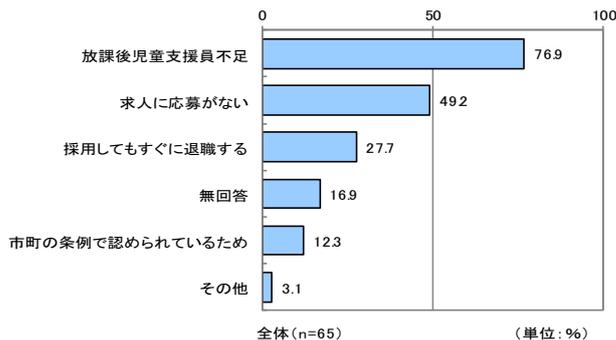
- ・放課後児童支援員の配置状況は、現状は「2名」が43.3%で最も多く、次いで「1名」が24.1%で続いています。
- ・理想では、「2名」が39.0%で最も多く、次いで「3名」が33.8%で続いています。
- ・放課後児童支援員を2名以上配置できていない理由は、「放課後児童支援員不足」が76.9%で最も多く、次いで「求人に応募がない」が49.2%で続いています。

(2) - 1 放課後児童支援員の配置状況

(単位: %)



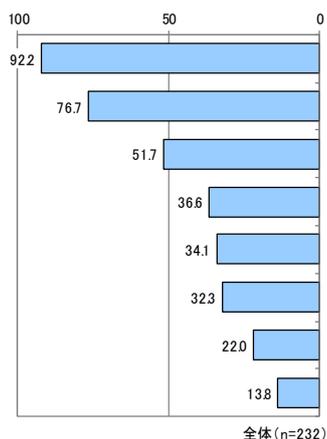
(2) - 2 放課後児童支援員を2名以上配置できていない理由



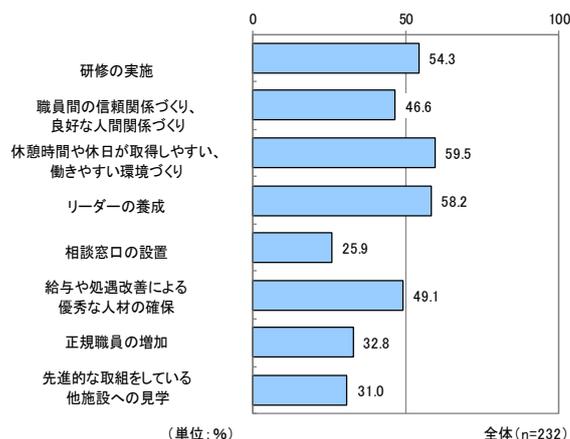
- ・職員の資質向上の取り組みについて、現在取り組んでいることをみると、「研修の実施」が92.2%で最も多く、次いで「職員間の信頼関係づくり、良好な人間関係づくり」が76.7%で続いています。
- ・今後取り組みたいことをみると、「休憩時間や休日が取得しやすい、働きやすい環境づくり」が59.5%で最も多く、次いで「リーダーの養成」が58.2%で続いています。

(2) - 3 職員の資質向上の取り組み

<現在取り組んでいること>



<今後取り組みたいこと>

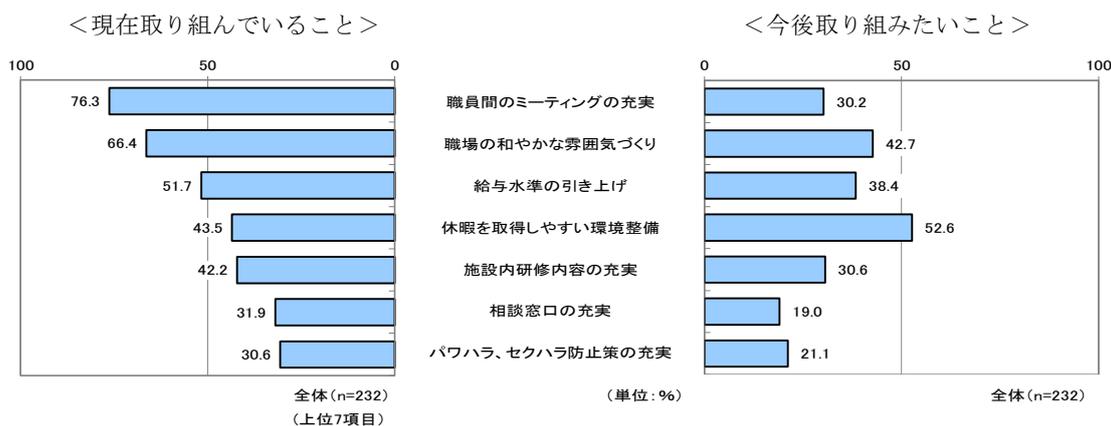


- ・過去3年間に自己都合で退職した放課後児童支援員等の勤務年数別人数は、年々増加しており、令和2年は313人で平成30年の2.5倍となっています。
- ・また、いずれの年も「3年未満」の退職者が7割を超えています。
- ・職員の職場定着のため現在取り組んでいることは、「職員間のミーティングの充実」が76.3%で最も多く、次いで「職場の和やかな雰囲気づくり」が66.4%で続いています。
- ・今後取り組みたいことは、「休暇を取得しやすい環境整備」が52.6%で最も多く、次いで「職場の和やかな雰囲気づくり」が42.7%で続いています。

(2) - 4 過去3年間に自己都合で退職した放課後児童支援員等の勤務年数別人数

	平成30年	令和元年	令和2年
1年未満	45人 (35.7%)	95人 (37.7%)	118人 (37.7%)
1年～3年	47人 (37.3%)	107人 (42.5%)	144人 (46.0%)
3年～5年	20人 (15.9%)	23人 (9.1%)	27人 (8.6%)
5年～7年	3人 (2.4%)	9人 (3.6%)	4人 (1.3%)
7年～10年	5人 (4.0%)	3人 (1.2%)	3人 (1.0%)
10年～15年	6人 (4.8%)	9人 (3.6%)	13人 (4.2%)
15年～20年	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (0.3%)
20年以上	0人 (0.0%)	6人 (2.4%)	3人 (1.0%)
合計	126人 (100%)	252人 (100%)	313人 (100%)

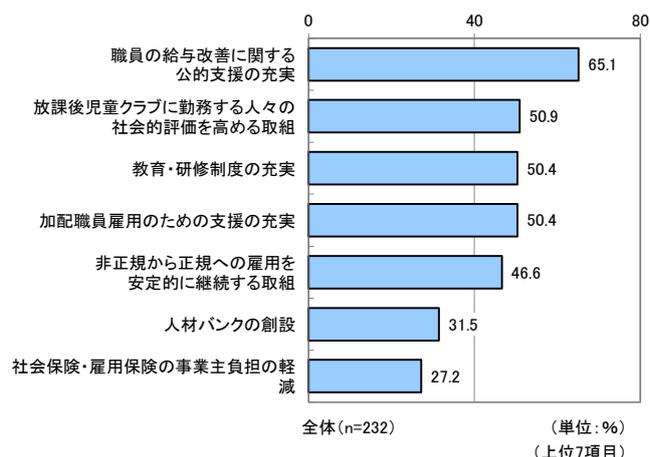
(2) - 5 職員の職場定着のための取組



③望む支援について

- ・職員を安定的に雇用していくために望む公的支援は、「職員の給与改善に関する公的支援の充実」が65.1%で最も多く、次いで「放課後児童クラブに勤務する人々の社会的評価を高める取組」が50.9%で続いています。

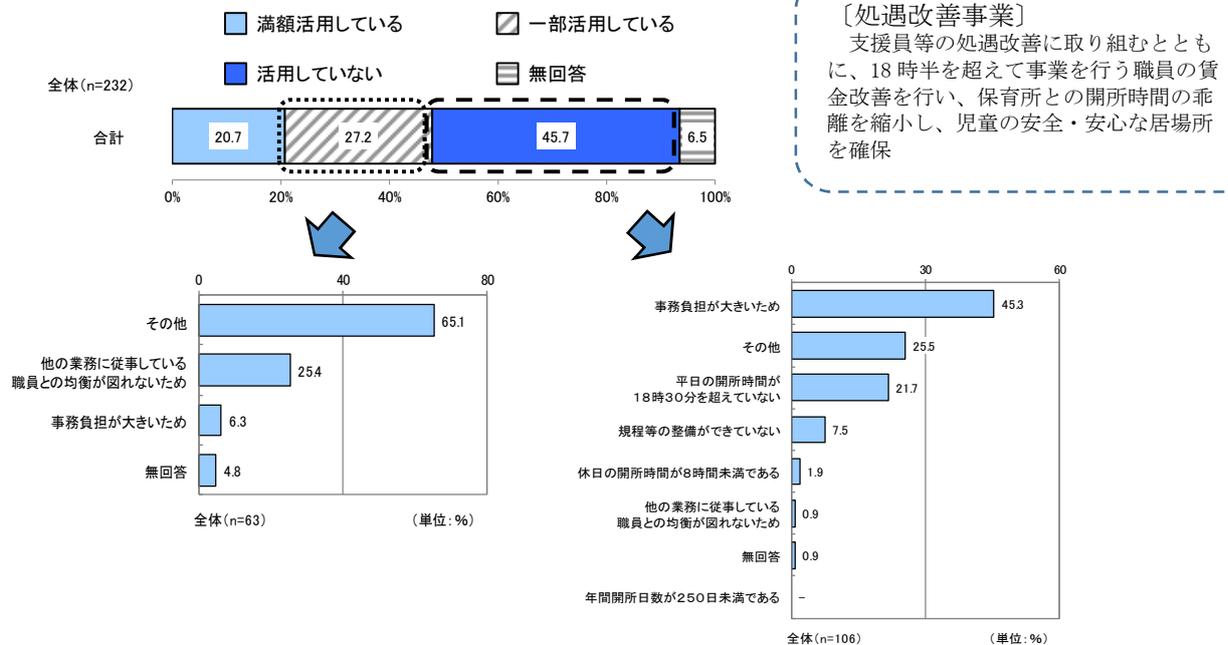
(3) - 1 職員を安定的に雇用していくために望む公的支援



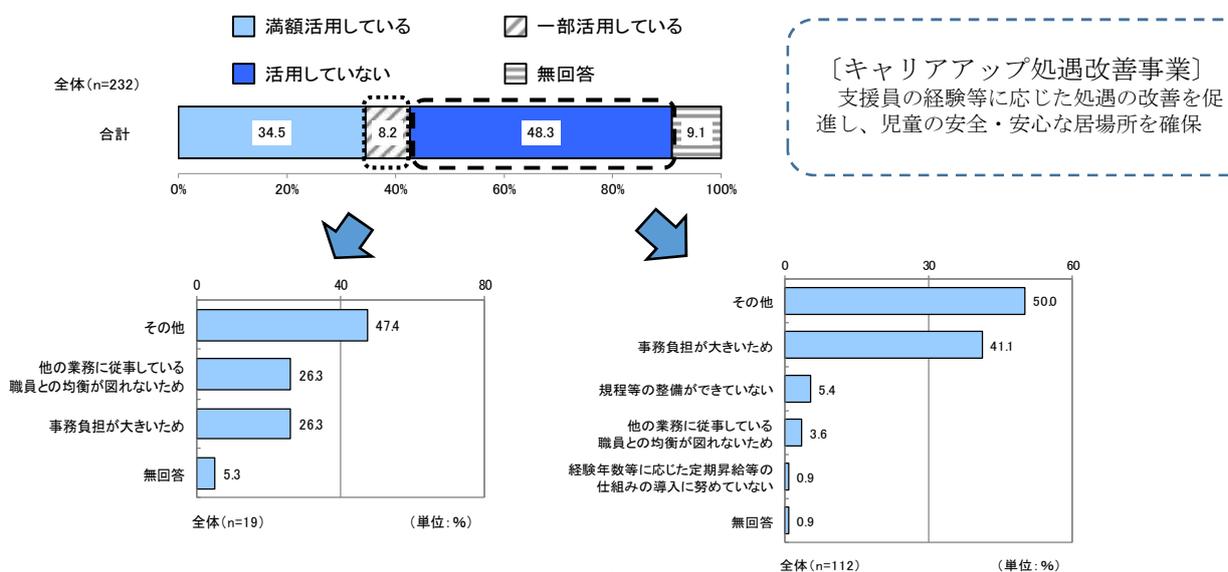
④ 処遇改善等の実施状況

- ・放課後児童支援員等処遇改善事業の活用状況については、「活用していない」が45.7%で最も多く、次いで「一部活用している」が27.2%で続いています。
- ・「一部活用している」理由は「その他」が65.1%で最も多く「市町が上限を決めている」など、次いで「他の業務に従事している職員との均衡が図れないため」が25.4%で続いています。
「活用していない」理由は「事務負担が大きいため」が45.3%で最も多く「公募プロポーザルのため仕様書の見直しが負担」などの理由が挙げられています。
- ・放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業の活用状況については、「活用していない」が48.3%で最も多く、次いで「満額活用している」が34.5%で続いています。
- ・「一部活用している」理由は「その他」が47.4%で最も多く「市町が上限を決めている」など、次いで「他の業務に従事している職員との均衡が図れないため」が26.3%で続いています。
「活用していない」理由は「その他」が50.0%で最も多く「補助基準額を超えた給与体系となっている」などの理由が挙げられています。

(4) - 1 放課後児童支援員等処遇改善事業の活用状況



(4) - 2 放課後児童支援員キャリアアップ処遇改善事業の活用状況

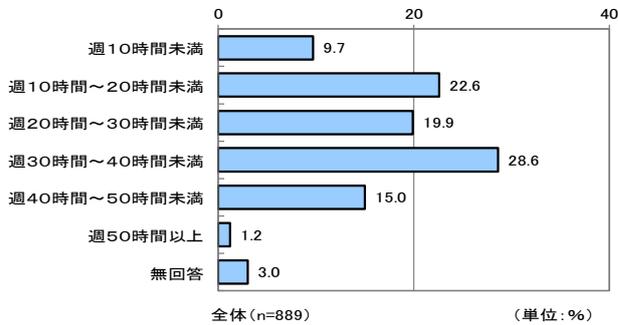


(2) 放課後児童支援員調査

①労働環境に関すること

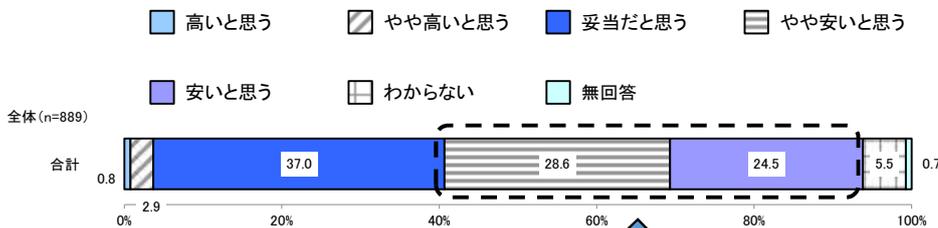
- ・ 1週間当たりの平均的な労働時間は、「週30時間～40時間未満」が28.6%で最も多く、次いで「週10時間～20時間未満」が22.6%で続いています。

(1) - 1 1週間当たりの平均的な労働時間

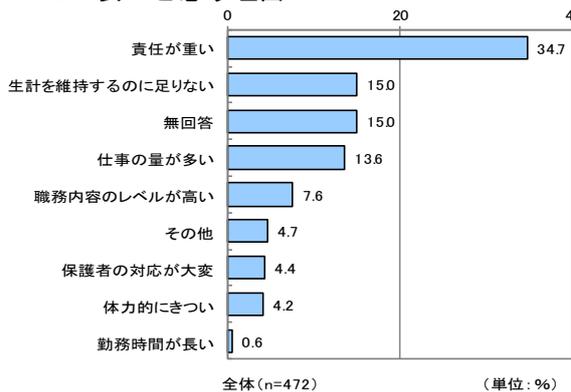


- ・ 給与の妥当性は、「妥当だと思う」が37.0%で最も多いが、「やや安いと思う」28.6%と「安いと思う」24.5%を合わせると、半数以上が安いと思っています。
- ・ 給与を安いと思う理由は、「責任が重い」が34.7%で最も多く、次いで「生計を維持するのに足りない」が15.0%で続いています。
- ・ 労働条件や労働環境についての不満は、「給与」が29.8%で最も多く、次いで「仕事の責任の重さ」が26.7%で続いています。

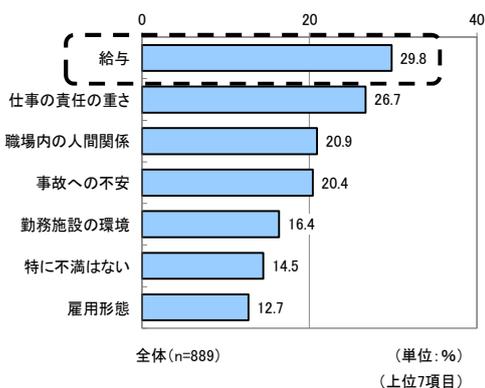
(1) - 2 給与の妥当性



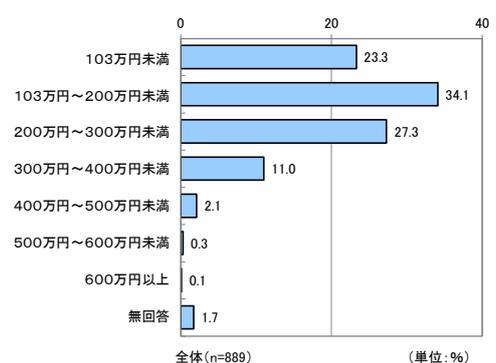
(1) - 3 安いと思う理由



(1) - 4 労働条件や労働環境についての不満

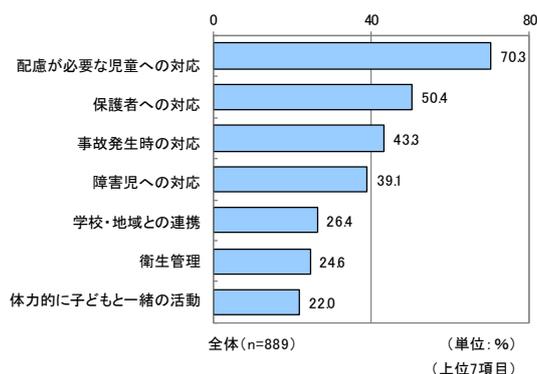


(1) - 5 給与 年収ベース (総支給額)



・現場での悩みについては、情緒が不安定、落ち着きがないなどで集団生活が困難など「配慮が必要な児童への対応」が70.3%で最も多く、次いで「保護者への対応」が50.4%で続いています。

(1) - 6 現場での悩み

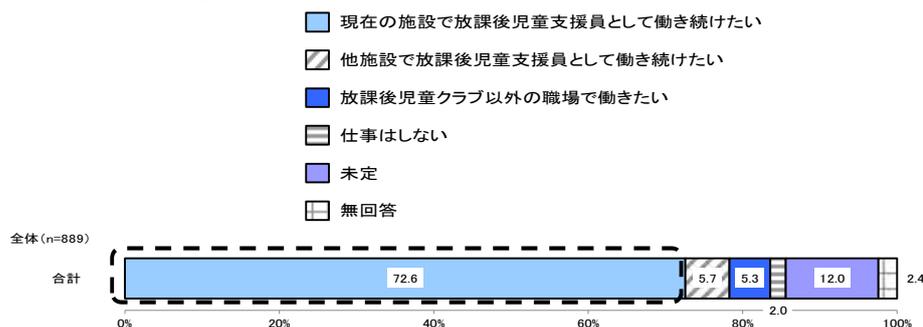


②今後の就業意向

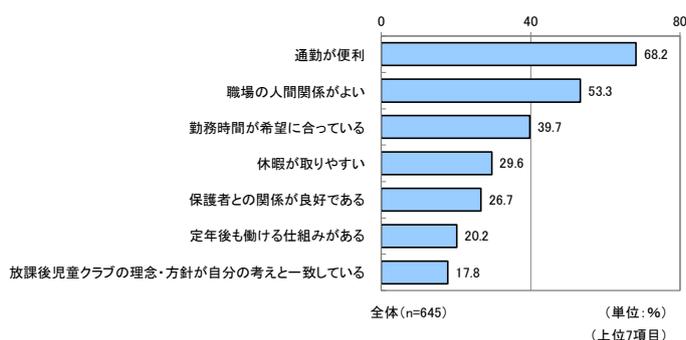
・今後の就業意向は、「現在の施設で放課後児童支援員として働きたい」が72.6%で最も多く、次いで「未定」が12.0%で続いています。

・働きたい理由については、「通勤が便利」が68.2%で最も多く、次いで「職場の人間関係がよい」が53.3%で続いています。

(2) - 1 今後の就業意向



(2) - 2 働きたい理由

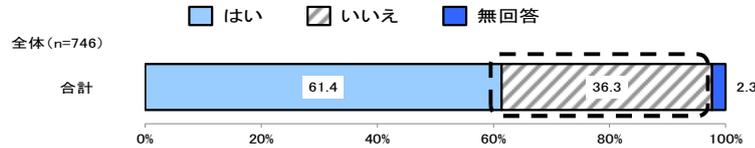


(3) 補助員調査

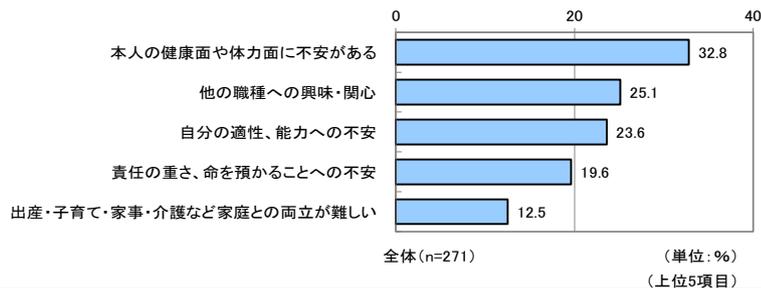
①放課後児童支援員としての就業希望

- ・放課後児童支援員になろうと思うかは、「はい」が61.4%、「いいえ」が36.3%となっています。
- ・放課後児童支援員になろうと思わない理由は、「本人の健康面や体力面に不安がある」が32.8%で最も多く、次いで「他の職種への興味・関心」が25.1%で続いています。

(1) - 1 放課後児童支援員になろうと思うか



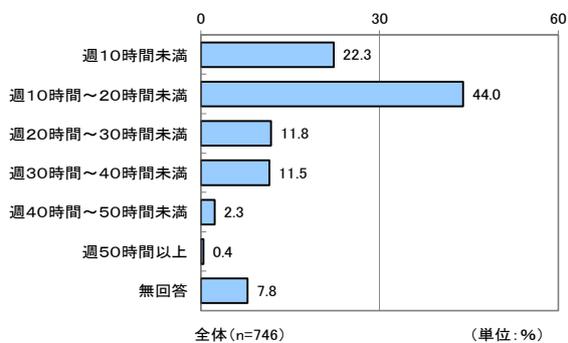
(1) - 2 放課後児童支援員になろうと思わない理由



②労働環境に関すること

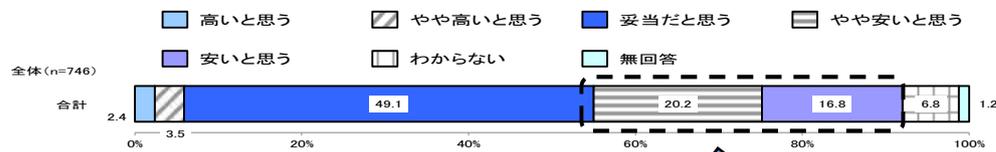
- ・1週間当たりの平均的な労働時間は、「週10時間～20時間未満」が44.0%で最も多く、次いで「週10時間未満」が22.3%で続いています。

(2) - 1 1週間当たりの平均的な労働時間

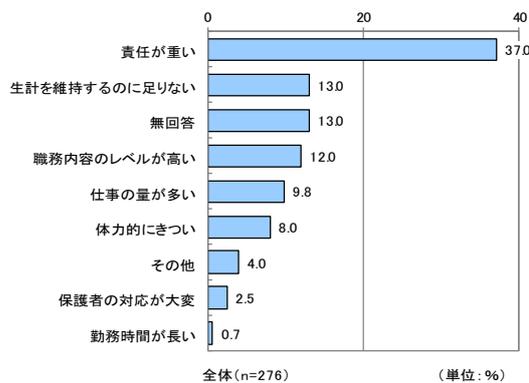


- ・給与の妥当性は、「妥当だと思う」が49.1%で最も多く、次いで「やや安いと思う」が20.2%で続いています。
- ・給与を安いと思う理由は、「責任が重い」が37.0%で最も多く、次いで「生計を維持するのに足りない」が13.0%で続いています。
- ・労働条件や労働環境についての不満は、「特に不満はない」が26.1%で最も多く、次いで「給与」が18.9%で続いています。

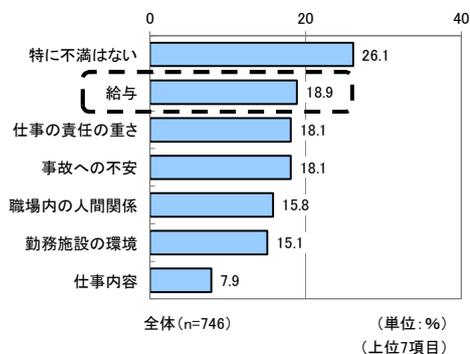
(2) - 2 給与の妥当性



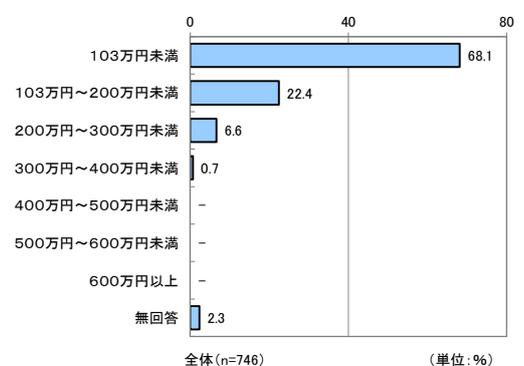
(2) - 3 安いと思う理由



(2) - 4 労働条件や労働環境についての不満

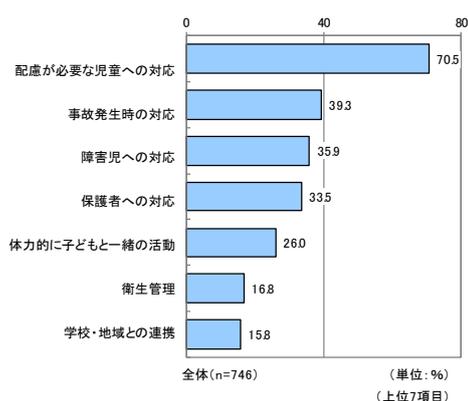


(2) - 5 給与 年収ベース (総支給額)



- ・現場での悩みについては、情緒が不安定、落ち着きがないなどで集団生活が困難など「配慮が必要な児童への対応」が70.5%で最も多く、次いで「事故発生時の対応」が39.3%で続いています。

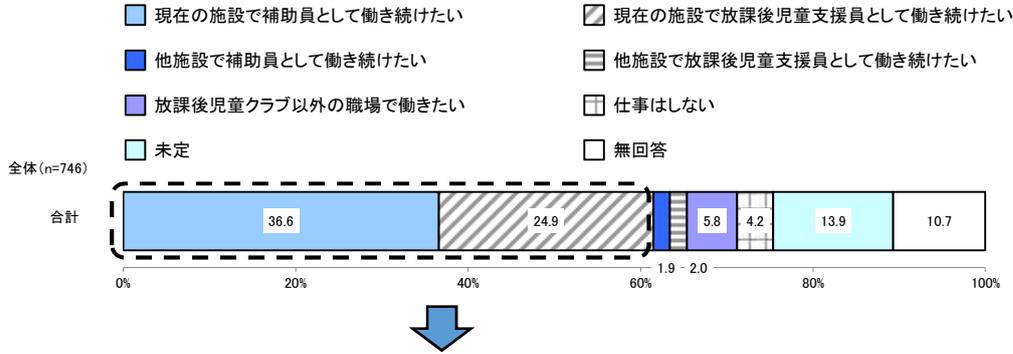
(2) - 6 現場での悩み



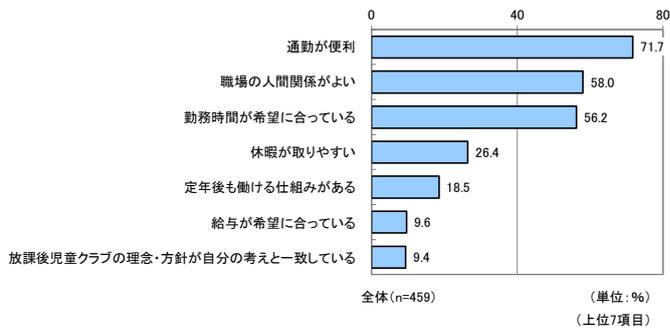
③今後の就業意向

- ・今後の就業意向は、「現在の施設で補助員として働きたい」が36.6%で最も多く、次いで「現在の施設で放課後児童支援員として働きたい」が24.9%で続いています。
- ・働きたい理由については、「通勤が便利」が71.7%で最も多く、次いで「職場の人間関係がよい」が58.0%で続いています。

(3) - 1 今後の就業意向



(3) - 2 働きたい理由

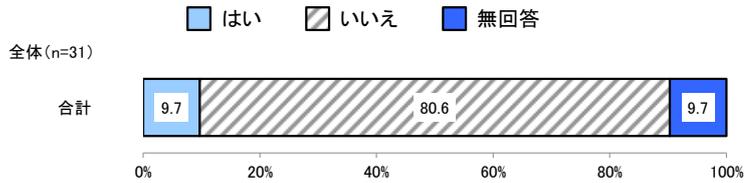


(4) 事務職員調査

①放課後児童支援員としての就業希望

・放課後児童支援員になろうと思うかは、「はい」が9.7%、「いいえ」が80.6%となっています。

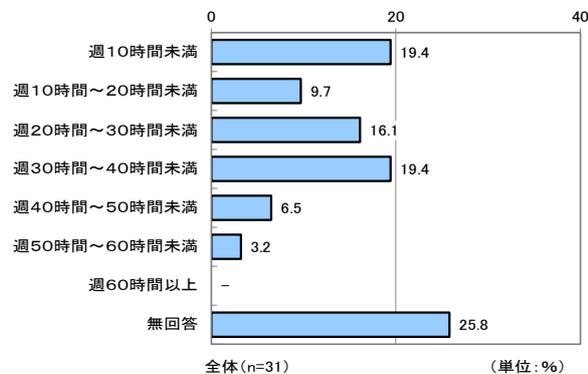
(1) - 1 放課後児童支援員になろうと思うか



②労働環境に関すること

・1週間当たりの平均的な労働時間は、「週10時間未満」と「週30時間～40時間未満」が19.4%で最も多く、次いで「週20時間～30時間未満」が16.1%で続いています。

(2) - 1 1週間当たりの平均的な労働時間

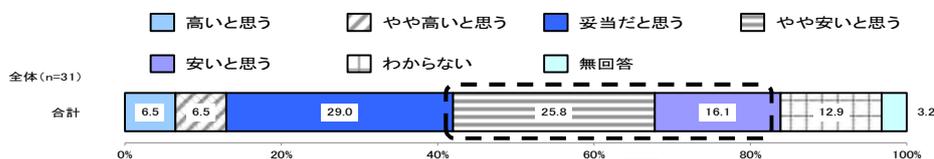


・給与の妥当性は、「妥当だと思う」が29.0%で最も多く、次いで「やや安いと思う」が25.8%で続いています。

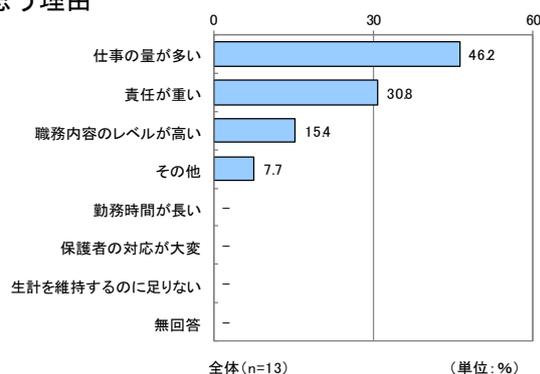
・給与を安いと思う理由は、「仕事の量が多い」が46.2%で最も多く、次いで「責任が重い」が30.8%で続いています。

・労働条件や労働環境についての不満は、「特に不満はない」が38.7%で最も多く、次いで「給与」が22.6%で続いています。

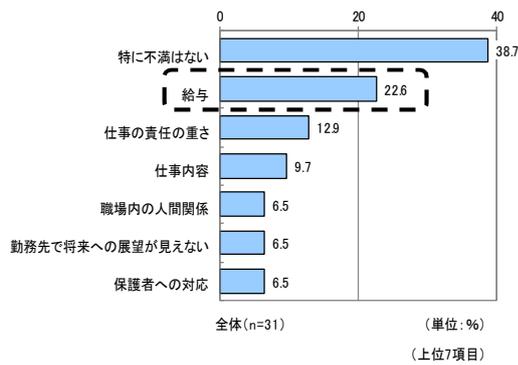
(2) - 2 給与の妥当性



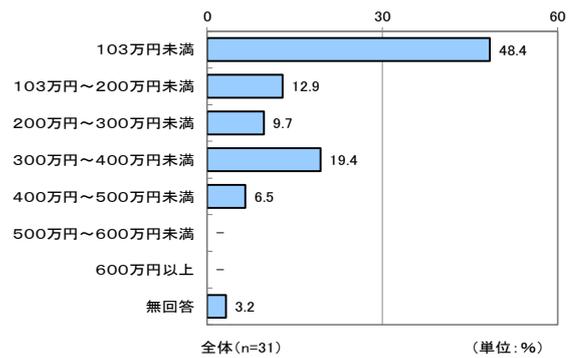
(2) - 3 安いと思う理由



(2) - 4 労働条件や労働環境についての不満



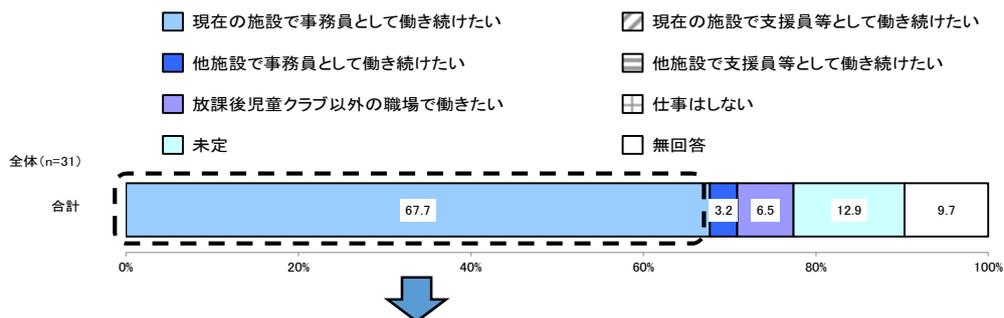
(2) - 5 給与 年収ベース (総支給額)



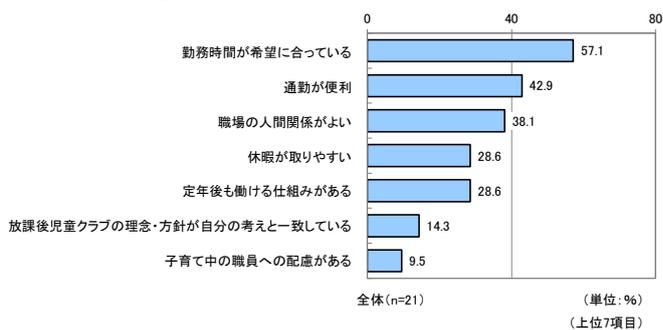
③今後の就業意向

- ・今後の就業意向は、「現在の施設で事務員として働きたい」が 67.7%で最も多く、次いで「未定」が 12.9%で続いています。
- ・働きたい理由については、「勤務時間が希望に合っている」が 57.1%で最も多く、次いで「通勤が便利」が 42.9%で続いています。

(3) - 1 今後の就業意向



(3) - 2 働きたい理由



4. まとめ

(1) 調査結果から見えてきたこと

- 回答があった施設のうち、1日当たり平均利用者が41人以上となっているのは約2割、児童1人当たりの専用区画面積が1.65㎡未満となっているのは約1割であり、概ね設備運営基準を満たしている。
- 勤続年数が3年未満の退職者が多い。
- 職場定着のため今後取り組みたいことで、休暇を取得しやすい環境整備や職場の和やかな雰囲気づくりが上位となっており、働きやすい職場環境づくりを目指している。
- 責任の重さから、仕事に見合った給与となっていないため、給与に関する不満が多くなっている。
- 支援員・補助員ともに、現場での悩みとして、情緒が不安定、落ち着きがないなどで集団生活が困難など配慮が必要な児童への対応が最も多くなっている。
- 支援員・補助員・事務職員ともに、今後も現在の施設で働き続けたいと考えている者が多い。

(2) 実態調査を踏まえた今後の取組の方向性

〔放課後児童クラブの質の向上〕

- 今年度から実施している放課後児童クラブ巡回支援事業において、事故防止や配慮を必要とする子どもへの支援などについて助言・指導等を行うとともに、市町担当者への制度説明や情報交換を定期的に行うことにより、好事例の取組の横展開を図り、放課後児童クラブの質の向上を図ります。

〔人材確保〕

- 放課後児童支援員認定資格研修の受講要件を緩和し、一般募集することにより、支援員の担い手の裾野拡大を図ります。
- 市町と支援員等の処遇改善に向けた課題解決を一緒に考えたり、職場定着のための取組を進めるなど、人材確保を図ります。
- 放課後児童クラブで働く職員の離職防止を図るとともに、安定的に人材を確保するため、処遇改善に向け運営費の拡充などを引き続き国に対し要望します。

〔放課後児童支援員等の資質向上〕

- これまでから実施している放課後児童支援員等資質向上研修のカリキュラムについて、支援員等の経験年数に応じた内容や障害児受け入れに必要な知識を習得する研修など、資質の向上を図ります。

今回の調査結果から見えてきた実態を踏まえ、支援員等の処遇改善、人材育成、労働環境の改善による働きやすい職場環境づくりを促進するなど、より一層放課後児童クラブの質の向上に向けた取組を実施していきます。